

職員室から・・・

2009・4・20

加藤 由美子

卒園した保護者の方から、嬉しいメールをいただきました。

ヨモギがあちらこちらで芽を出し『ママ、明日はヨモギ団子作り使用ね』と張り切っていたM子。学校から帰ってすぐに二人でヨモギ摘みに行き、お団子を作りました。トッピングはきなこにゴマ、黒蜜、あんこを全部かけました！（とても美味しかったです。お勧めです！）M子はヨモギを摘むとき、『赤ちゃんの葉っぱを摘むんだよね〜』と言いながら摘んでいましたし、家で葉っぱを選別するとき、『虫がついていないかきちんと見るんだよ』って、幼稚園で教えていただいたこと、体で覚えているんですね〜、嬉しくなりました。そうそう、ヨモギ摘みをしているときに通りすがりの女性の方が珍しがって声をかけてくださり、『ヨモギ団子をつくるので——』と答えたら『お若いのによくご存知ね』とおっしゃるので、『幼稚園で春になるとやっていたのです』と話すので、『なんて素敵な幼稚園！どちらの幼稚園?!』と言われたので『青陵幼稚園です』といいました。——中略——ヨモギ摘みに行くとき、M子と手をつなぐと『小学校にいてもママと手をつないでいいんだね』と嬉しそうに言うんです！きっと、小学生になったら、ひとりで学校に行くし、幼稚園児とは違うから、私と手をつないでは行けなくなるって思ったのでしょうか（いじらしいですね）『これからもず〜とず〜と手をつなごうね』とぎゅっと娘の手を握りしめた母でした。

ヨモギの時期にお団子を作ろうと提案するMちゃん、そしてそれを受け入れヨモギ摘みに出かけてくださるお母さん、幸せな姿ですね。Mちゃんの心は満たされたことでしょう。葉っぱの見分け方、虫の確認などをしっかりと心に留めていたMちゃんに私たち保育者は励まされると共に、伝えるべきことをしっかりと意識していなければならぬと思います。

また、Mちゃんが小学生になったことを意識して、小学生になったんだからこうあらねばならないと自らを律しようと考えていたことに感動しました。子どもってなんて素敵なのでしょうか！子どもはいろんなことを考えていることがよくわかります。

もつとも、こうして自分の思いを言うことができる親子関係であったからこそ、こうした言葉が聞くことができたのですね。

“言葉に表さない思い”を子どもたちは心にいっぱい詰め込んでいるのだと思うと、子どもたちの言葉を聞く姿勢を持つことと、その言葉を理解しようとする姿勢を大人はきちんと持たなければならぬとつくづく思いました。

“言葉にあらわさない思い”を聞き取ることができるようになればなりませんね。Mちゃんの手をぎゅっと握り締めたお母さんの思い——愛おしくて愛おしくてならないその思いがMちゃんに伝わって、お二人の姿は何ともいえない温かな雰囲気だったことなのでしょうね。だからこそ、通りすがりの女性が思わず言葉をかけたくなったのかもしれませんが。保護者の皆様！子どもたちが何歳であろうとも、子どもが望む限り、手をつないで歩いてあげてくださいね！

● 早く帰る赤ばらさんが、お迎えにいらしたお母さんと一緒に、ず〜とず〜とブランコに乗っていました。白ばらさんも青ばらさんも給食を食べている時間でしたから、ゆっくりと乗っていられたようです。

ず〜とず〜と、あきるまでブランコに乗ってられるってめったにないことですよ。よかったね。赤ばらさん！

● 桜が風に舞っていて、白ばらさんが「あ〜ゆきだ〜？あれちがう・・・さくらだ〜」とっていました。本当に雪みたいでした。プールがある庭には、桜の花びらがじゅうたんのようになっていて、ほんとうにきれい！

そういえば、ひろった桜の花を手のひらにのせて「きれいだから家に飾ろうと思って・・・」と大切にいらした白ばらのお母さんがいらっやいました。こういう感覚を大切になさってくださいね、こういうお母さんの言葉や姿、行動をすべてお子さんは学んでいますから・・・それから、「お父さんの分とお母さんの分と僕の分」と言って、桜の花をひろって、そっと手のひらに乗せて持ち帰った赤ばらさんがいらしたと聞きました。家族をとっても大切に思っているお子さんの心が表れていますね。子どもたちは本当に家族を大切に思っています。絵を描いていても、家族全員を描き、物を作っても妹や弟の分まで作ったり、いつもいつも家族を思っていて、愛おしい子どもたちです。

「きれいだね〜」といいながらお子さんと一緒に花を拾っていた赤ばら保護者の方もたくさんいらしたとか・・・感性が豊かに育まれますね。こうしたことは感性だけではなく、お母さんの愛情が伝わる機会でもあって、すっぽりとお母さんの心の中に抱かれている安心感や信頼にもつながりますね。